

中文大家乐

みんなで楽しむ中国語

第9号 中秋節号(2010・9・22)

2010・10・22 発行松江中国語教室連盟 年3回発行

協力 「日本中国語検定協会松江会場」

ホームページでもご覧になれます

<http://homepage3.nifty.com/chinese-wang/>

「以文会友」しませんか。記事を電子ファイルで wangmx@nifty.com までお寄せください。

日中交流祭 生け花小原流の講習会



“日中交流节”在热烈的气氛中闭幕

从九月三号到五号的三天，在松江市「town plaza 岛根」松江汉语教室联盟举办了“松江日中交流节”的活动。

这个活动是为了促进日中友好交流，还有是为在日本居住的中国人早日能习惯日本的生活，所以进行了相互的两国文化的介绍。

比如说，日本方面是箏和小提琴演奏，插花，日本舞蹈的表演，中国方面是内蒙古的马头琴的演奏，太极拳的表演。还有品尝中国茶和中国酒等。

出场演员是在日本的留学生，中文老师，还有在日本各方面的专家等。他们的表演非常精彩。首先，我们应该感谢他们的协助。

还有通过三天，住在鸟取县和岛根县的八位摄影家展示了他们精彩的照片。总计三十二张。这些照片都是他们去中国旅游时拍照的。

来参加的人是在松江学习汉语的學生，摄影爱好者，对中国感兴趣的人和国际交流中心的有关人员等等。

在参观人中，来自在岛根县内的电脑公司工作的中国研修生也很多。她们对日本的插花非常感兴趣。

「日中交流祭」は盛会裏に閉幕しました！

9月3日から5日までの3日間、松江市の「タウンプラザしまね」で、松江中国語教室連盟の主催による「松江日中交流祭」が開催されました。

この催しは、日中友好交流を促進し、また日本に住む中国人に一日も早く日本の暮らしに慣れてもらおうと、お互いに両国文化の紹介が行われました。

日本の文化では琴やヴァイオリンの演奏、日本舞踊、生け花の実演、中国の文化では内蒙古の馬頭琴演奏や太極拳演技、また中国のお茶やお酒の紹介と吟味など多彩なプログラムです。

出演したのは中国人留学生や中国語の先生、日本の各界の専門の方たちで、どなたも大変素晴らしい実演でした。出演の皆さんのご協力に感謝します。

また期間中、鳥取と島根両県内の8人の写真家による32枚の写真も展示され、どれも中国旅行で撮影された秀作でした。

この催しに参加したのは、松江で中国語を学ぶ人や写真愛好者、中国に関心のある人や国際交流センターの関係者の方々などです。

来場者の中には、県内のパソコン工場で働く中国の研修生の皆さんも数多く、日本の生け花にも大変興味を示していました。

中文班的同学大场先生带着她们来的。他配合胡斌老师的工作，对这样的同学，我感到特别的高兴，另外也表示敬意。

还有，我时隔四年能展示了我们和四川省九寨沟的藏族孩子们交流的照片等等、那是一段美好回忆。我想给参观的人留下深刻的印象。

最后一天有一个“座谈会”。题目是「日中文化的差异」。中国留学生和中国研修生也参加了，他们用日语努力地说着自己的意见，我看到他们热情的态度，我被感动了。今后我要在学习中文上加油！

交流节期间、每天来参观的人很多。听说，大概有三百五十人以上。我们和参加的人一起过了一段很愉快的时间。

这次的交流节太好了！谢谢了！大家辛苦了！

祝贺大会取得了成功！祝贺各教室的老师们，还有同学们！我对大家的协助表示敬意，感谢！（2010，9，9 建仁）

中文班の級友であった大場さんが、胡斌先生の活動に協力しようと彼女たちを引率して来たもので、このような級友の姿勢は大変嬉しく敬意を表します。

また、私は四川省・九寨沟のチベット族の子供たちと交流した写真など美しい思い出を4年ぶりに展示することができました。来場の皆さんに深い印象を与えたと思います。

最終日には「日中文化の違い」を語る座談会があり、中国からの留学生と研修生も参加しました。日本語で懸命に自分の意見を伝えようとする彼らの熱心な姿勢に感動させられました。私はもっと中国語の勉強を頑張らなければ！

期間中、大変多くの来場者があり約350人を超えたそうです。そして私たちは来場者の皆さんと一緒に楽しいひと時を過ごしました。

交流祭は大変良かった！有難う！皆さんお疲れさまでした！

交流祭の成功おめでとう！各教室の先生方、級友の皆さん、おめでとう！

私は皆さんの協力に敬意と感謝を表します。

日中交流祭



写真を通じて



中国茶



中国の詩と酒



太極拳の体験



日中文化の違いを語る会



日本舞踊「霸王別姫」

【霸王別姫】が結ぶ縁

九月初旬、日中友好祭の松江にての御開催おめでとうございます。企画立案の先生方の御熱意が実を結び各方面からの趣向を凝らされた素晴らしい会になったことを心より喜び申し上げます。

私共は東雲会の松の部として参加させていただき日舞版創作「霸王別姫」を松江北高出身の青年二人の出演でまだ至らぬながら、献上させて頂きました。

奇しくも京劇不世出の女形梅蘭芳唄、舞の当時のものをインターネットで拝見でき、その唄で舞え、振り付けの参考にさせていただいたのは京劇ファンとしては最高の喜びでありました。

「霸王別姫」は、中国京劇史上、どれほど繰り返し演じられているのかわからぬほどで近くは陳凱歌監督の映画で1993年カンヌ映画祭でパルム・ドール賞を獲得し、最近では日本でも東山紀之主演で舞台で演じられ好評を博していました。私は十年程前、陳監督のビデオを百回以上拝見させていただきましたが、セリフはさっぱりわからず、「一秒、一分、一刻も・・・」の箇所しか聞き取れませんでしたのに感動していました。

陳監督の映像の色彩の美しさは勿論、悲しむべき日中戦争の中でも尚、京劇を愛した日本人も居たことが描かれてあったのは、たいへんな驚きでありました。

未来の役者達の養成時代の厳しい稽古、蓮池の前での場面で「力拔山・・・」が唄われており、感激を新たにしたものです。主役三人の愛憎、歴史とすべてが巧みに描かれているこの映画はやはり史上稀にみる傑作だと感服しています。

昔、高校生の漢文の授業で、垓下の戦い、四面楚歌の故事、或いは「力拔山・・・気蓋世」の詩を教科書で習い、感動し、「桃夭」から「長恨歌」まで、先生の朗々たる訓読に、私もそんな風に漢文を読みたいと思ったものでした。

読書百篇意自ずから通ず、とはいうものの、私のように皆目わからない者もあります。ただある日、全く別のテープでこの映画についての二人のトークを聞いていたところ3、4年わからなかった内容が突然聞き取れたという奇跡があったことがありました。たぶん、読書百篇・・・とは、色々足掻かなければ、なかなかわからないものだ、でも希望は失ってはいけない、という教えなのでしょう。

この度の催しを機縁に思いがけず参加できたことを感謝し、「日中友好の良い徴になり、東京と出雲の国を結ぶ文化会」の意味で名付けた東雲会も合わせてお引き立ていただきませうようお願い申し上げますとともに今後とも日中友好が益々盛んになりますことを心より望む次第でございます。

(東雲会—松の部 龍松山 麗雅)

名前って何だろう？

上海に来て1年半が経ちました。この9月からは、「中国語を勉強しながら日本語を教えるボランティアの先生」としてではなく、普通の外国人教師として働くことになりました。

私は名前を明本典子^{あきもと のりこ}といますので、日本語学科では学生からも、先生たちからも「あきもと先生」と呼ばれています。しかし、学内でも教務課の先生など日本語関係者以外の人たちからは「mingben 檣師」、とか、単に「mingben」と呼ばれることになります。それは日本と中国の相互主義に立ってのことですから、最初は「誰のこと？」という感じで少しくすぐったかったのですが、今ではすっかり慣れ、また中国語を学んでいる身としては中国語で名前を呼ばれることは嬉しいことでもあります。でも、私の心の中にはもう一つの思いもあるのです。日本語を知らなくても、名前だけでも「あきもとさん」「のりこさん」と、発音は上手くなくても、そう呼んでくれる人はいないかな……と。

実は学内での呼ばれ方はもう一種類あり、欧米人の教師たちからは、「Noriko」と、しかも「ri」にアクセントを置いて呼ばれることになります。母国語では「のりこ」と呼び捨てにされることなど家族以外ではありませんが、彼らにはそんなことは関係ありません。また、最初は自己紹介するときには当然、「No」にアクセント核をおいて自分の名前を言っていました。結局「Obama」や「Chicago」と同じアクセントで呼ばれることになりますので、「誰のこと？」と思いながらも最近では、自分でもアクセント核を「ri」にしています。英語の発音体系の中では、それが自然らしいので。私たち日本人は「Mary」とか「Bryan」とか、日本語にはない「r」もがんばって発音して、できるだけ正確に相手の名前を呼ぼうと何となく努力してしまいますけど……。以前日本で英語を教えていたというアメリカ人教師は「のりこさん」と呼んでくれます。日本人としては、そう呼ばれると、やはり何か人格を尊重して名前を呼ばれたような気がするのです。

私が中国で驚いたことの一つは、欧米人と接する機会の多い中国人（英語学科の先生など）は、自分の名前に欧米風の名前を付けて名乗っている、ということです。「David Wu」と「Cynthia Li」とか……。香港の芸能人だけではなかったんですね！私は、これをもし自分なら？と考え、「Laura」とか「Margaret」とかいろいろ想像してみましたどれも馴染めそうにもありませんでした。まあ、覚えやすいニックネームのようなもの、と考えれば楽しいかもしれません。

こんな経験を通して「名前って何だろう？」という漠然とした疑問を抱いていた私だったのですが、先日、その疑問を解消する小さな経験をしたのです。

日本語科の学生たちの名前は、日本語の読み方で呼んでいます。ところが、先日ある必要から、学生の名前を中国語で読むことができました。罍榘肱芑罍瘳瘳罍罍罍麗沝沝罍壞托紅罍……。そこには日本語で呼んでいたときにはわからなかった、姓と租帛が一体化した快い響きがありました。試しに、中国人の先生に読んでもらおうと、もっと美しく感じます。ああ、これがこの子たちの本当の名前なんだな……。という静かな感動とともに、彼らの本当の姿と出会ったように感じたひとときだったのです。

人の名前とは、やはり母語による発音・表記によるもの。それが世界で唯一の「名前」。

学生たちの名前の美しい響きが教えてくれたのは、たどり着いてみればこんな素朴で単純な結論だったのです。

学生たちにも本当の読み方で名前を呼んでほしい、そんな思いがあるのかもしれませんが。授業以外のときには、それもいいかな、でも、学生は驚くかな……。そんなことを考えながら新たな気持ちで新学期をスタートしたところです。（明本）

中国茶

～日中交流祭 中国茶の紹介文から

お茶のふるさと

お茶は世界中で愛飲されていますが、紅茶や日本茶も含めてそのルーツは中国にあります。唐の時代に『陸羽』が編纂した世界最古とされるお茶の聖典『茶経』によると、お茶の歴史は紀元前 2700 年頃にまで遡り、農耕の神で漢方薬の始祖とされている神農が茶葉を使って病気を治したのが喫茶の起源とされています。

唐の時代、お茶は中国中に広まり、明の時代、一般市民へも普及していきました。そして、お茶は発祥の地、中国から世界各地へと広まっていったのです。

現在世界中で使用されているお茶の発音は、その伝わった経路により「チャ」と「テ、ティー」に二分されるそうです。「チャ」は広東語の発音に、「テ、ティー」は福建語の発音に由来するのだとか。

長い長いお茶の歴史に思いを馳せながら、どうぞ中国茶を味わってください。

中国茶の種類

中国各地には、その気候や摘み取りの時期、加工の方法などによって数え切れないほどの種類のお茶がありますが、茶葉の発酵の度合いを基準として、入れた時の湯色別に大きく 6 種類 + に分類されています。

【紅茶】

祁門／正山小種など

完全発酵茶。茶葉の形が残っているものが高級品とみなされています。発酵茶特有の華やかな香りがします。スモーキーな香りがするものもあります。

【緑茶】

龍井／碧螺春 など

不発酵茶。中国でもっとも生産量が多く、一般的に飲まれているお茶です。ビタミンCが豊富。若々しい爽やかな香りがします。日本の緑茶より香ばしい味がします。

【黄茶】

君山銀針／黄大茶など

微発酵茶。緑茶に似た爽やかな香りのお茶です。茶葉の形が美しく、お湯の中で揺れる様子も楽しめます。生産量が少ない貴重なお茶。



【黒茶】普洱茶／雲南沱茶 など

後発酵茶。雲南省の普洱茶が有名。まろやかなコクがあります。古いものほど価値が高くなり、ビンテージワインのように楽しまれています。脂肪を洗い流す効果があるといわれ、ダイエット茶として飲まれることも。

【青茶】

白毫烏龍／大紅袍など

半発酵茶。中国茶といえばまず頭に浮かぶ烏龍茶はこの青茶の種類に入ります。中華料理を食べた後にいただくと、清々しい香りですっきりします。高級なものは花の香りがします。福建省や台湾で生産されるものが有名。

【白茶】

白毫銀針／白牡丹など

弱発酵茶。茶葉の表面に白毛が生えていて、白っぽく見えます。あっさり、すっきりとした味わい。

【花茶】 【工芸茶】

ジャスミン茶／菊花茶など

6 種類のほかに、お茶に花の香りをつけたり、花そのものを茶葉がわりにした花茶や、茶葉と花を糸でつないで玉状にし、お湯を注ぐとグラスの中で幻想的に花開く工芸茶などがあります。

中国茶の産地

お茶の産地は多くありますが、主に北緯 18～38 度のあたりに分布しています。北は安徽省、南は広東省あたりが名産地となっています。

＜主なお茶の産地＞

- 「安徽省」 緑茶や祁門紅茶の産地
- 「浙江省」 緑茶の産地。西湖周辺で栽培される龍井茶が有名
- 「湖南省」 緑茶の産地。紅茶、黄茶も栽培される
- 「福建省」 良質の烏龍茶の産地として有名
- 「雲南省」 普洱茶の故郷
- 「台湾」 高山烏龍茶の産地



中国茶のいただきかた

「工夫茶」は、中国茶の香り、味、そして見た目も存分に楽しませてくれる、お茶を入れる所作です。きちんとした手順で淹れられたお茶はおいしさもひとしおです。

《聞香杯》でいただくお茶

1. 聞香杯の上に、上下をひっくり返した茶杯を蓋のようにかぶせます。
2. お茶がこぼれない様に上下をしっかりと押さえ、聞香杯と茶杯の上下をひっくり返します。
3. 聞香杯を持ち上げ、中のお茶を茶杯に移します。
4. 空になった聞香杯を鼻に近づけ、お茶の香りを聞きます。香りを楽しんだ後、茶杯のお茶を味わいます。
5. 2煎目以降は聞香杯を使わず、普通に茶杯でお茶をいただきます。



聞香杯と茶杯

もっと気軽に…



普段は、耐熱ガラスのグラスや、蓋碗でいただきます。グラスでいただく場合は、湯の中に揺れる茶葉の動きを楽しみながら、茶葉がある程度沈むのを待っていただきます。



蓋碗でいただく場合も、蓋をしたまま茶葉がある程度沈むのを待ちます。そして茶葉を避けるように蓋を軽くずらし、湯のみと蓋の隙間からお茶をいただきます。

(奈良)

中国の詩と酒

「涼州詞」

葡萄美酒夜光杯
欲飲琵琶馬上催
醉臥沙場君莫笑
古來征戰幾人回

葡萄の美酒 夜光の杯
飲まんと欲すれば 琵琶馬上に催す
酔うて沙場に臥すも君笑うこと莫れ
古來 征戰 幾人か回る

王翰

古来中国では、酒は詩作に欠かせない題材のひとつでした。李白はもとより王翰の「涼州詞」などは皆さんも目にされたことが多いのではないのでしょうか？

詩は酒席で作られることも多く、即興でできた詩を歌いながら酒を味わうのが当時の文人の楽しみ方でした。

今回はそんな楽しみ方を皆さんと共有しようと、中国酒とかかわりのある漢詩や文学作品を紹介させていただきます。

中国の酒

本題に入る前に中国のお酒について一言。現代でこそビールやワインを飲む方が増えていますが、もともと中国酒には大きく分けて蒸留酒の白酒と

醸造酒の黄酒という2種類の酒があり、地域によって飲む酒も大きく異なっています；

白酒：高粱，小麦，粟などを原料にして作った蒸留酒。度数は40度以上が主で無色透明なものが多く、日本の焼酎、泡盛に近い、どちらかというとならぶ北方のお酒。
Ex. 茅台酒（貴州），五糧液（四川省），汾酒（山西省），二鍋頭（北京）

黄酒：もち米を主原料として作った醸造酒。度数は16，7度くらいで、琥珀色のものが多い。材料，作り方共に日本酒に近い。
Ex. 紹興酒（紹興），上海老酒など。

日本では中華料理と言えば紹興酒というイメージがあるようですが、実際に飲まれているのは、紹興・上海を中心とする浙江省一帯に限られ、他の地方では白酒が飲まれています。実際の生産量も白酒が大体8割を占め、黄酒は全体の1割程度に過ぎません。

* 白酒を飲みながら楽しむ中国文学・中国映画

今回は紹興酒と漢詩を中心にしていますが、白酒を飲みながら鑑賞するのにぴったりの作品もありますので宜しければお試しください：

- ・『紅い高粱』莫言 岩波現代文庫 2003年
- ・『紅高粱』張芸謀監督 1988年映画化

コーリアンの海に囲まれた山東省高密県を舞台に、酒屋の女主人九児と抗日ゲリラ部隊の隊長余司令の恋、芳しい高粱の酒、抗日ゲリラ戦、高粱畑を駆け回る盗賊たちを縦横無尽に描いた快作です。



曹操と黄酒

花井四郎氏の『黄土に生まれた酒』によれば、黄酒の原型となる醸造酒は今から2500年前には既に存在しており、早くも三国時代には紹興の名産としての地位を築いていました。三国時代の英雄曹操は、

この黄酒の新しい醸造法を皇帝に奏上しており、現在の紹興酒とさほど変わらぬ旨酒を愉しんでいたようです。曹操といえば『三国志演義』の悪役のイメージが強いのですが、彼の伝記である『三国志』『武帝紀』を読んでみると、優れた政治家・將軍であっただけでなく、当時トップクラスの詩人であったことが分かります。

曹操の詩を朗読してみましよう

そんな曹操の作である「短歌行」冒頭は、まさに酒をテーマとしています、恐らく曹操もこの詩を歌いつつ黄酒を愉んだのでしょう。中国のみなさんもこの詩は大抵ご存知です、酒席で冒頭の一部を暗唱するだけでも拍手喝采です、みなさんも一度お試しください。

「短歌行」

对酒当歌 人生几何? 譬如朝露 去日苦多 duìjiǔ dāng gē rénshēng jǐ hé pìrú zhāo lù qùrì kǔ du
 慨当以慷 忧思难忘 何以解忧? 唯有杜康 kǎidāng yìkāng yōusī nánwàng héyǐ jiěyōu wéiyǒu dùkāng
 青青子衿 悠悠我心 但为君故 沉吟至今 qīngqīng zǐjīn yōuyōu wǒxīn dàn wéi jūn gù chényīn zhìjīn
 呦呦鹿鸣 食野之苹 我有嘉宾 鼓瑟吹笙 yōuyōu lù míng shíyǎn zhī píng wǒ yǒu jīn bīn gǔ sè chuī shēng
 明明如月 何时可辍? 忧从中来 不可断绝 míngmíng rú yuè héshí kě chuò yōu cóng zhōng lái bùkě duànjué
 越陌越阡 枉用相存 契阔谈讌 心念旧恩 yuè mò yuè qiān wǎng yòng xiāng cún qīkuò tán yàn xīn niàn jiù ēn
 月明星稀 乌鹊南飞 绕树三匝 何枝可依? yuè míng xī wū què nán fēi rào shù sān zā hē zhī kě yī?
 山不厌高 海不厌深 周公吐哺 天下归心 shān bù yàn gāo hǎi bù yàn shēn zhōu gōng tǔ bǔ tiān xià guī xīn

酒は飲むべし歌うべし 人の命ははかなきものよ 朝露に似しこの命 過ぎ行く日々は徒なりき
 高ぶる心歌に託すも 苦しき思い消えやらず この憂い如何に解くべき 杜康より他に何がある
 青き衿付けたる人よ ひとぶるに慕うは我が心 君をしも求めんと いのりつつ今に至りぬ
 鹿は鳴きて友を呼び 仲睦まじくよもぎ食む 我にもよき客人あり いざや琴ひき笙吹かん
 明るきはかの月か されどその光掬う術なく 憂いのみ胸底よりわき しばしだに止む時の無きぞ悲しき
 さまざまに道たずね はるばると良き客の来たりなば 心くだきて酒席しつらえ 積もる話に旧情をば温めん
 月さやかに星暗く カササギは南に翔ける 樹をめぐる三度なるも 抛るべき枝の絶えてなし
 土くれ拒まずして山高く 流水厭わずして海深し 口中の食吐きしはかの周公 世に慕われるもむべなるや
 (訳は『漢魏六朝詩集』伊藤正文・一海知義 平凡社 による)

* 紹興酒を飲みながら愉しむ中国文学

近代中国を代表する文学者 魯迅はこの紹興の出身であり、彼の作品に登場する「酒」は基本的に紹興酒を指します。没落知識人の悲哀を描いた「孔乙己」、故郷での友人との再会を描いた「酒樓にて」など、切なく物悲しい物語にも暖かい紹興酒はよく合います。

・『魯迅文集 1巻』ちくま文庫 1991年

○ 紹興酒の種類

現在、紹興酒には醸造法や貯蔵期間によって数種類のバリエーションがあります。以下に簡単に紹介しますので参考になさってください。

元紅

もっともベーシックな紹興酒で熟成期間は1~2年。国内でほぼ消費され、我々外国人が口にするのはあまりないようです。ネーミングの由来は“状元紅” - 状元は科挙の首席合格者のことで、紅は中国ではおめでたい色とされています。*日本ではほぼ入手不可。

加飯

元紅酒にさらに3斗の米を加えて作るので“加飯”酒という名前がついています。日本で飲む事が出来る紹興酒はほぼ全てこれと言って良いでしょう。



善釀

水の代わりに搾りにかける以前の酒を用いて醸造したものです。糖度が高く、甘くて濃厚な酒。日本ではあまりお目にかかれません。*日本ではほぼ入手不可。
味のバランスが最も良く、酒飲みにも好まれるのは加飯酒です、私も一番これがお気に入りです。8年ものがお勧め。善釀は味、香りとともに素晴らしいのですが、酒飲みには少々甘ったるく感じてしまうのです。ただし、酒をあまり飲めない方には善釀がお勧めです。ただし、口当たりが良いとはいえ、日本酒とほぼ同じアルコール度数なので、飲みすぎには注意してください。

娘のために 10 数年 - 女兒紅

紹興には、古来子供が生まれて 3 日目の産湯を使う“洗三”の祝いに送られたもち米を使って紹興酒を造る習慣があります。生まれて 1 ヶ月目の満月の日に両親は親戚を招いてご馳走し、父親は来客とともに紹興酒の甕を地中に埋めます。これを“女兒酒”と呼び、酒の入った甕はその後 10 数年間地中で眠りつづけます。この酒は、女の子が成長して嫁に行くとき初めて掘り出され、娘とともに嫁に行きます。この甕には美しい彫刻が施されており、別名“花彫酒”とも呼ばれます。

紹興酒の楽しみ方

紹興酒のつまみ

酒と言えばつまみが付き物。日本の中華料理店では、紹興酒はどの地方料理にも合わせて出されていますが、とりわけ味付けが日本に近く、油もそれほど使わない上海（浙江）料理によく合うようです。また、「孔乙己」の冒頭でも紹介されているように、塩筍や茴香豆といった紹興独特のつまみも当然のことながらよく合います。以下に上海料理・紹興のつまみの順にわたしが実際に食べてこれは、と思うものを挙げておきました。

上海（浙江）料理

酔っ払い蟹：生の上海蟹を紹興酒で漬けたもの、ミソが絶品。

蟹粉白玉：蟹味噌豆腐、蟹味噌で作った餡をスープで煮込んだ豆腐にかけた物。

わたしが今一番食べたいのはこの料理。

東坡肉：詩人蘇東坡が考案したと言われるもの、いわゆる豚の角煮。脂が程よく抜けたとろとろの脂身は紹興酒にぴったり。

紹興のつまみ

茴香豆：干したソラマメを、塩、ウイキョウ、肉桂などの調味料で煮たもの、最も手ごろなつまみのひとつ。一皿 5 元（75 円）。

臭豆腐：豆腐を発酵させたものを素揚げにし、芥子味噌をつけて食べる、名前の通り、とても臭い。しかし紹興酒には恐ろしくよく合う。

素鶏：鶏料理ではなく、湯葉と筍の煮物。

醬鴨：醤油漬けのアヒルの肉、精進料理が多い紹興酒のつまみの中では異色。噛めば噛むほど味が出る、酒をちびちび遣りたい時には必需品。

西施豆腐：餡かけ豆腐、やさしく上品な味で、紹興酒と共に流し込むと胃がとても暖まる。北京「孔乙己」の名物料理。

（カラコロ工房中国語教室 内藤忠和）

参考資料：『黄土に生まれた酒』花井四郎 東方選書 20 1992 年
『魯迅の紹興』裘士雄ほか 岩波書店 1990 年 ほか

一篇日记

日本有这样的一条谚语:热到秋分、冷到春分。天气终于凉快起来了。

我从开始学习汉语已经三年了。但是随着年龄的增长、头脑也不灵活了、记忆力也不好。并且有时不能上学。

但是我喜欢汉语。也喜欢这个教室的老师和上课的气氛。以后我也想继续学习汉语。
(平崎)

我的婚礼

2010年,我完成了人生中的一件大事:我结婚了!

6月6号,我们在横滨新大饭店举行了婚礼。这家饭店在横滨港附近,有83年的历史了。

横滨港开阔的风景和古典式建筑,让来这儿访问的人觉得时间过得很慢,空气中散发着一一种特殊的感觉。

我们选择在这儿举行婚礼,是想请远方来的客人感受旅行的气氛,让朋友们在东京匆忙的生活中获得一刻的平静。

我希望大家都能分享到我的幸福。(吉平)

旅游小知识

香格里拉之旅

初秋的草甸、蓝天、雪山、清澈的海子、神秘的寺院、浓郁的民族风情、这些足以让人动情、让人留恋。这就是香格里拉、被世人称作是「世外桃源」的地方。



香格里拉、位于中国云南省的西北部。平均海拔 3300 米。5-7 月和 9-10 月是到香格里拉旅行的最佳时间。从上海坐飞机可以直接到达迪庆香格里拉机场(所需时间大约 5 个小时)、也可以从昆明坐 50 分钟的飞机、到达香格里拉。当然也可以走陆路、相信沿路的风光会带给你更多意想不到的收获的。

(山阴中央新报文化中心 中文教室 胡斌)

· 外篇

「2010 松江日中交流节」承蒙岛根国际中心的大力支持、在此再次表示感谢。同时也欢迎大家浏览该中心的网页。<http://www.sic-info.org/>

中秋節を楽しむ中国の人たち



中国旅行から帰って来たたん、「排日運動は大丈夫だった？」と皆が心配して声をかけてくれる。今回の尖閣諸島の紛争問題が過剰気味に報道され、中国全土にわたって日本人が排斥されているような印象を皆が抱いているようだ。実際はそのようなことはまったくなく、いたって平穩で中国の人たちは九月二日から始まった『中秋節』を旧正月と並んで二大伝統行事として楽しんでいる。中国では企業も学校も日曜日を振り替え出勤、登校日にして二二日から三連休となっている。そのため飛行機、列車などの乗り物は満席で切符が手に入りにくい。

道行く人たちは両手に『月餅』(ユエピン)の飾り箱を抱えて家路を急ぎ、渋滞する車の窓から楽しそうな子ども達と一緒に『月餅』の包みが見えかくれする。ハルビンではいま地下鉄工事がピークを迎え市の中心部は道路が遮断され、迂回道路は車の大渋滞だった。

この時期に米子の中国語講座の仲間と長春、ハルビン、大連の旅を楽しんできた。ハルビンの中央大街の歩行者天国は昼も夜も人々で溢れていた。ハルビンから大連に向う国内線の機内サービスで月餅が出てきた。くるみの実などの入った餡が美味しい。月餅も以前のものに比べて甘さがひかえ目になりかなりソフトになってケーキのような感じになってきた。しかし包装は派手なものもあり缶入りの詰め合わせで五センチ四方はあるかと思われる五元(七五円)もする豪華版も店頭で売られていた。進物用のようだ。

大連は雲一つない快晴に恵まれ日中の気温も一五度前後と爽やか。真っ赤な夕日が沈み、夜の帳(とぼり)につつまれると中空には大きな満月が輝いていた。テレビでは大掛かりな舞台装置をバックに『中秋晚会』と題した大歌謡ショーが中央電視台制作で全国放送されていた。爆竹と花火で戦場のような騒がしさの旧正月と違って中秋節はゆったりとした時の流れを感じ、家族とともに名月を眺め月餅を食べるのが定番のようだ。

大連でも懸案だった地下鉄工事が二系統で始まっていた。一つは中山広場の地下を縦断する路線で、いま中山広場は南北の道路を残して二分され、周囲は工事用の壁で囲われてしまっていた。中山路を西に向って工事が進んでいくと最も交通量の多い路線なので他人事ながら交通渋滞が心配だ。もう一つの系統は星海公園の近くを起点に工事が始まっていた。

日本の新幹線に当る高規格高速鉄道を中国では和諧(フーシエ) = (調和) という愛称で開発が進められており、高速道路網も整備が目覚ましい。またハルビンや大連に見られるように地方都市での地下鉄工事も急ピッチ。発展を続ける中国経済を象徴しているようだ。そんな中で中秋節や旧正月などの民間の伝統行事は、人々の日々の生活にしっかりと受け継がれており、十月一日から始まった国慶節の長い休暇を謳歌しているのだ。(久保田美雄)

你喜欢喝中国茶吗？

中国茶はいかがですか

今年夏が暑く、しかも一番暑い8月に高温で有名な武漢にいたので、体が伸びきってしまいました。その厳しかった毎日に、お茶は欠かせないものでした。実家に帰省すると私はほとんど料理を作る出番がないので、せめてでもと、お茶のサーブिसに専念しました。大きなポットを2つを用意して、ウーロン茶と日本から持参した麦茶を交互に沸かして飲んでいました。ただし中国では、お茶を冷蔵庫で冷やして飲む習慣がほとんど無いので、常温で冷ましたものを飲みます。

中国で旅行に出かけるときは、茶葉と水筒を必ずもっていきます。駅やレストランなどでお湯が無料でもらえるからです。今はペットボトル入りのお茶をどこでも買えますが、ジュースのように甘く、少し抵抗を感じます。子供のころ、夏限定で道沿いに、お茶がガラスのコップやお碗に入って一杯1分か2分銭で売っていました。その味と色は番茶に似ています。

中国茶といえば、日本ではウーロン茶というイメージが強いようですが、実際は緑茶の方がよく飲まれています。緑茶は種類も多く、地域によって茶葉の形、味、色は違いま

す。中国旅行に行くとき、地元のお茶屋さんを訪ねるのもお勧めです。地元のお茶の銘柄や、その地方の人たちの好みも分かります。

緑茶は「嫩茶杯泡 老茶壺泡」(新茶館は人と交わり、リラックスできる場です。近年、スタバックスのようなコーヒー屋が若者を中心に人気を集めていますが、まだまだ、手ごろなお茶のほうに財布に優しいです。

私は、日本のお茶もよく飲みます。朝ごはんの時は番茶を飲みます。松江の番茶がとてもおいしいです。煎茶は、横着してコップで入れる時もありますが、茶葉を切断しているので、すぐ苦くなります。お菓子があるときはやはり急須で入れるほうがおいしいです。お湯の温度を低くして入れると味が甘く、色は鮮やかな緑になります。抹茶は中国の宋の時代に流行り、その後、本土で忘れられたものの、日本で飲み継がれたそうです。さらに茶道まで発展したのが日本人の繊細な気質の賜物だといつも感心しています。お客さんにおいしくお茶をいただくための細やかな気配りは、私たち中国人にとって見習うべきものです。ある意味で中国茶は自己満足の色合いが強いのもかもしれません。

中国茶は緑茶に限らず、本紙「中国茶」で紹介したように種類が豊富で、試してみればきつとあなたのお気に入りのお茶が見つかるでしょう。日本茶と違った味や作法を楽しめば、あなたのお茶の世界が広がります。いや、広がるのはお茶だけに限らないかもしれません。



四川省成都市内の茶館

天気の良い日に、低料金で、お茶を飲みながら一日をそこで過ごせます。よくあるお茶は四川省の緑茶、「竹叶青」「峨嵋毛峰」や、ジャスミンティーの一種、「飄雪」です。お気に入りの茶葉の持参も可能です。

(松江テルサ中国語教室 王岷雪)